



ごあいさつ

さあ、皆様はお元気ですか？ 気候もだんだん暖かくなってきて、気温の変化に体調をくずされてはいませんか？ 一緒にどうにか頑張っていきましょう。

<今月のことば>

「自分の人生に何が期待できるか ではなく 人生が自分に何を期待できるか」

オーストリア 精神科医 ビクトルEフランケル

ナチスの収容所を生き延びた経験から

少し難しいですか？

院長

< ごちゃごちゃにしてご意見そして院長の考え >

① なぜ、院長は、よく触診 とくに脈をとるのですか？

体にさわると、ものすごい量の患者さんの情報が得られるからです。体から生き生きとした情報が伝わってきます。お話をすればさらに増えます。医師の気力も患者さんの予後を左右します。

② 胆石の 怖さ、

術前も術後も、腹痛で来られた時も、微熱で、気分不快で来られた時も、患者さんにはあらゆる軽症から重症になりつつある病態が存在しているのです。

③ 和やかに あかるく

一緒にどうにかしようと、どうにかなるさ、という開き直りというか、前向きなきもちで難しい病気も、ともに歩いていきましょう。ただ、私や庸介先生の手におえないものは、即座に紹介が必要です。

④ なぜ 看板が 岡村胃腸科外科 なのですか？

もともと、私の得意技？は、外科・麻酔・心のつらさをともに解決しよう、そして内科一般の重症・緊急性のあるもの、でした。そう、総合的な診療なのです。ですが、開業したとき、私をご存知の方々は、病院の中の岡村でした。勤めていたころは「胃腸科と外科そして麻酔科」だったので、そのまま 岡村胃腸科外科としました。小児も含めて脳・心臓・胸部・肺・腹部・腎臓・泌尿器・外傷・婦人科疾患・下肢血管・心の病気など全身を見てきた自分でしたが。あえてそうしました。

⑤ 院長の体調は？

大分回復してきました。いろいろな会合にも、前にもまして出席、参加してます。

⑥ 膵がん について

そうですね、家族歴を見ると、同じ家系に多いですね。



⑦ 薬の量、日数、人によってそんなに細かくちがうのですか？

赤ちゃんから、こども、おとな、太った方、やせた方、高齢の方、どんな持病をお持ちか、によって 当院ではだすお薬や量や、日数が違います。また、抗生剤などを長く出さない理由は、人には自分で病気と闘い、直す力がある、という事を前提にしています。

⑧ なぜ、小児夜間急病センターに いかれるのですか

小児科の病気の麻酔などより重症なケースを見ていました。小児科の先生方が少ないので、応援の意味もあります。ドクターであるからには、何科でも、地域のために協力し合うべきと考えています。

⑨ 今後、通院されているかたも、高齢化しますよね、通院できなくなったら

先生の診療の姿勢はかわるのですか？

おうちにいるようになり、診療所にこれなくなった方々のために、徐々に往診体制をとるようにしてゆきます。いまから、手をあげておいてください。

#### 4月の院長の主な活動内容

3/ (木) 他クラブ 25 周年記念事業参加	錦糸町
7/ (木) 第 2 回会長幹事会	ユニテイビル 松戸
8/ (金) 「某エレベーター」 起工式	松戸
15/ (金) 当院カンファレンス	
16/ (土) 夜間小児夜急急病センター	市立病院
24/ (日) 異業種の方々と高尾山 へ	
27/ (水) 異業種 3 人懇談会	松戸
28/ (木) 国際大会準備会	八柱
29/ (金) 地区協議会 (RC 次期会長のため)	幕張



先月の熊本県、大分県での地震の影響で、  
現在でも多くの方々が過酷な生活を送られています。

私も微力ながら買い物先で募金をしたり、  
電話の通話料での募金をしました。

今すぐ出来ること、これから継続して行えることを  
考えていけるかに移ろいていきたいと思ひます。

そして、已度めて 3 日分の食事、飲み水の石炭イ保など  
地震の備えについて考えました。

今日の担当 青木でした。

